

評価年月日 平成 29 年 8 月 18 日

研究所名 畜産センター

[中間評価]

課題名 デュロック種系統造成豚を活用した肉質向上試験 (平成 26～30 年度)

【課題の概要】

国内の養豚生産は、飼料原料の海外依存、輸入豚肉との競合等が続くことが予想されている。一方、消費者ニーズは、安全で安心できる、おいしい国産豚肉を求めており、国内では有利販売を目的とした銘柄豚肉の生産等の産地間競争が激化しており、特色のある豚肉生産が強く望まれている。

一般に、肉豚は三元交雑豚 (LW・D 等) が利用されており、雄系であるデュロック種は産肉性に優れ、その能力が肉質に大きな影響を及ぼしている。本研究では、筋肉内脂肪含量が高い特色のある豚肉の生産を目的に、系統造成中のデュロック種 (平成 28 年 12 月造成完了：ローズ D-1) を用いて、肉質への影響を調査する。また、給与飼料等によって筋肉内脂肪含量を効果的に増加させる飼養技術についても検討する。

交配に用いたデュロック種は系統造成の進展に伴い、筋肉内脂肪含量は増加し、生産された肉豚においても脂肪含量が増加する傾向が認められた。

今後は、造成の完了した「ローズ D-1」を交配した肉豚を用いた調査を継続し、その能力の効果を調査するとともに、給与飼料等の影響を検討し、特色のある豚肉生産に向けた技術を確立する。

【評価結果】 (評価委員数 4 名)

○各項目の評価 (各評価委員の平均点)

貢献の可能性	進捗度・達成度	成果の整合性	合計点
4.8	5.0	4.5	14.3

○総合評価 A：継続

(A：継続 B：計画を見直し継続 C：中止)

【委員の意見・助言と対応策】

評価項目	意見・助言	
研究成果は計画どおりの貢献の可能性があるか	・ 造成したデュロック種が期待通りの能力を後代に伝えており、今後の肉質改善に期待が持てる。	
研究は計画どおりに進捗しているか	・ 計画通りに進捗しており、今後も生産現場と連携して研究を進めてほしい。	
当初目標とした研究成果が得られる可能性はあるか	・ 造成を完了したデュロック種 (ローズ D-1) の活用により、特色のある豚肉が安定して生産されることを期待する。	
総合評価	意見・助言	対応策
	・ 研究は順調に進展している。 ・ 脂肪含量が多く、美味しい新ブランド豚肉の生産に向け、多くの科学的根拠を蓄積して公表できるよう研究を継続してほしい。	・ 造成途中豚を用いた成績も良好で、ローズ D-1 の能力への期待も高まっており、特色のある豚肉生産に向けて、系統豚の能力をより活用できる飼養技術等を確立する。